

# 市民病院だより

## 予防接種を受けましょう

小児科医師 安藤 万里子

前回の5月5日号では予防接種の特徴や種類、受け方等についてお話ししましたが、今回は最近テレビや新聞で取り上げられ話題となったワクチン3種類について詳しくお話しします。

### 1. 小児用肺炎球菌ワクチン

肺炎球菌は健康な人の鼻の奥にいる身近な菌ですが、抵抗力が弱くなると、のどなどから体に入り、髄膜炎、菌血症、肺炎、中耳炎などの病気にかかりやすくなります。その中でも肺炎球菌による髄膜炎は小さい子供に多く、日本では年間2000人の子供がかかっています。

髄膜炎は脳を包む膜にこの肺炎球菌が付いて、けいれんや意識障害を起こす病気です。髄膜炎の後遺症としては、発達・知能・運動障害、難聴（聴力障害）を起こす可能性があります。

予防としては小児用の肺炎球菌

ワクチンの接種が有効で、欧米で2000年頃よりワクチン接種が始まってからは病気にかかる子供が激減しています。

日本では平成22年2月から接種できるようになりました。生後2か月から9歳までのお子さんが接種できます。現在、小城市では生後2か月から5歳未満まで無料で接種できます。

### 2. ヒブ（インフルエンザ菌b型）ワクチン

インフルエンザ菌も、髄膜炎、敗血症、肺炎などの原因となる菌です。その中でもインフルエンザ菌による髄膜炎は、年間600人の子供がかかり、その内の5〜10%が亡くなり、30%が後遺症として残ると言われています。

予防としてはヒブワクチンの接種が有効で、欧米では1980年代よりワクチン接種が始まってからは病気にかかる子供が激減しています。

日本では平成20年12月に接種できるようになり、生後2か月から接種できます。現在、小城市では

生後2か月から5歳未満まで無料で接種できます。

### 3. 日本脳炎ワクチン

日本脳炎は蚊の血液の中にある日本脳炎ウイルスが体の中に入って感染します。かかっても多くの方は症状が生まれませんが、一部の人に脳炎が起こります。

過去に接種されていた日本脳炎ワクチン接種後に神経系の病気（脳脊髄炎）の重症例が起こったとして、2005年から積極的な推奨はなくなりました。

しかし、その後に新しい日本脳炎ワクチンができ、2009年から定期接種として使用できるようになりました。2010年から3歳児への初回接種について積極的勧奨が再開されています。第1期で受けそびれていたお子さんも9歳から13歳未満の年齢で残りの回数を受けられるようになりました。

接種するよう強くすすめている「定期接種」と、希望する人が費用を負担して受ける「任意接種」があります。いずれも保護者の判断に委ねられています。

予防接種はもし病気になっても軽症で済むことが多いので、お子さんの健康にお役立てください。

## 糖尿病専門外来を

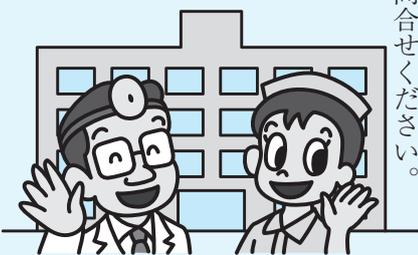
はじめます

小城市は県内でも糖尿病の患者様の割合が際立って高く、また重症の方も数多くおられます。糖尿病の予防や早期治療は小城市にとって重要な課題のひとつです。

当院でも毎月2回糖尿病教室を開催する等の糖尿病対策に取り組んでいます。更に6月より、佐賀大学肝臓・糖尿病・内分泌内科診療教授の安西慶三先生による糖尿病専門外来を開設することとなりました。

少しでも糖尿病の患者様やそのご家族の方、地域における糖尿病対策のお力になれればと考えております。

詳しくは電話または窓口へお問合せください。



時間外受診をされる方へ

【問合せ】小城市民病院

急病等での時間外受診の場合は、必ず電話で宿日直医師の担当診療科をお問合せください。専門外の疾病の場合は、診察できませんのでご了承ください。

☎73-2161

ホームページ・アドレス

<http://www.city.ogi.lg.jp/hospital/>